310. 苦難とは、神様からの贈り物だ、と思えるかどうか
【(『超訳 ニーチェの言葉』)白取春彦×ジョン・キム】(前編)
DIAMOND Online 2012.9.11.
(傍線:吉田祐起引用)
多くの書店でベストセラーのランキング入りしている『媚びない人生』のジョン・キム氏。韓国に生まれて日本に国費留学、アジア、アメリカ、ヨーロッパ等2大陸5カ国を渡り歩き、使う言葉も専門性も変えていった著者が著したのは、ゼミの最終講義で卒業生に送ってきた言葉をベースにした人生論だった。今回は、『超訳 ニーチェの言葉』が110万部を突破、待望の第2弾が出たばかりの白取春彦氏との対談をお届けします。今、2人が読者に伝えたいメッセージとは。(取材・ 構成/上阪徹 撮影/小原孝博)

安定を求めるのは、一種の堕落だと気づけ

白取春彦(しらとり・はるひこ)
青森市生まれ。ベルリン自由大学で哲学・宗教・文学を学ぶ。哲学と宗教に関する解説書の明快さには定評がある。主な著書に『超訳 ニーチェの言葉』『超訳 ニーチェの言葉2』『頭がよくなる思考術』『生きるための哲学』(以上、ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『仏教「超」入門』(PHP文庫)ほか多数がある。

キム 『超訳 ニーチェの言葉』の2冊を拝読しました。もっと早く読んでおけばよかったと思いました(笑)。この本は、読み手によって、得られるものがまったく違ってくるかもしれないですね。また、同じ読み手でも、自分の成長によって解釈が変わってくる。本には余白がたくさんありますが、これは解釈の余白なのではないか、と感じました。

白取 そうですね。上っ面だけ速いスピードで読んでも、あまりわからないかもしれないですね。読者の体験がどこまであるかによっても違う。深く読めば読めるし、浅く読もうと思えば読める。人によって、受け取り方はまったく違うと思います。

キム 僕が『媚びない人生』で書いていることと、ほぼ同じことも書かれています(笑)。日々、生を自分で創造していくのだ、安定や安全を求めるのは危険だ、という内容は、特に共感します。

白取 人生というのは、いつも新しくならなくちゃいけないんですね。今のままがいい、昔に戻りたい、というわけにはいかないんです。経営やビジネスもそう。いつも時代に合わせて、新しくしていかないといけない。『媚びない人生』は、ニーチェよりもストレートに書かれていますけどね。

『媚びない人生』を拝読して、キムさんは、よくこれだけ強い調子で書いたな、と思いました。こんなに、あからさまに書いていいの、と(笑)。これはキムさんのスタイルもあるでしょうし、普段、大学生

と付き合われていますから、若い人に何が必要か、よくわかっておられるんでしょう。ただ、ご自分の言葉で書かれてるのが、キムさんですね。僕は、わざわざ迂回して、ニーチェの言葉で書いている。

ジョン・キム（John Kim）
慶應義塾大学大学院　政策・メディア研究科特任准教授。韓国生まれ。日本に国費留学。米インディアナ大学博士課程単位取得退学。中央大学博士号取得（総合　政策博士）。2004年より、慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構助教授、2009年より現職。英オックスフォード大学客員上席研究員、ドイツ連邦防衛大学研究員（ポスドク）、ハーバード大学法科大学院 visiting scholar 等を歴任。アジア、アメリカ、ヨーロッパ等、3大陸5ヵ国を渡り歩いた経験から生まれた独自の哲学と生き方論が支持を集める。本書は、著者が家族同様に大切な存在と考えるゼミ生の卒業へのはなむけとして毎年語っている、キムゼミ最終講義『贈る言葉』が原点となっている。この『贈る言葉』と、将来に対する漠然とした不安を抱くゼミ生達が、今この瞬間から内面的な革命を起こし、人生を支える真の自由を手に入れるための考え方や行動指針を提示したものである。

キム　大事にしなければいけないのは、人間の生と死に対する眺め方だと思うんです。人間には、いつ死ぬかわからないという、避けられない運命がある。生というのは、前にしか進んで行くことができないし、過去というものは変えることはできない。今、この瞬間に起きていることと、どう向き合うか、ということです。

白取　本当は変化しているんですよね、いろいろなものが。僕らはいつも、その変化をもっともっと感受性を豊かにして感じ取らなきゃいけないんです。なのに、**安定や安全を求めようとする。それは、一種の堕落だと気づく必要がある。**同じ道を通って会社に通い、似たようなご飯を食べて、同じ仲間と同じ酒を飲んで…。そんな暮らしをしていると、必ず別の問題が起きるんですよ。安定しているように見えて、すでに内部から崩れているんですから。

キム　いつか死ぬのだ、という意識の薄さが、生に対する緊張感を削いでいる気がします。毎日毎日、同じルーチンを繰り返して永遠に生きていくことができれば、それはひとつの生き方かもしれませんが、少なくともいつかは死ぬという変化は避けられない。

枠の中で生きたり、群れの中に入って生きれば、短期的には居心地はいいけれど、中長期的には、自分の人生は蝕まれていきますよね。実は多くの人が、なんとなくそのことには気づいていると思うんです。ところが、そこに真剣に向き合うことができない。

特に『超訳　ニーチェの言葉 II』で印象的だったのは、**名誉や地位、お金など、そういうものから離れたときにこそ、純度の高い自分が見つけられる**ということでした。自分の人生を自分で切り開いていくには、自分の中で覚悟や決意がないといけない。人間はラクして人生の創造はできないですよね。自分で切り開くんだと決意して初めて、自分らしい人生は作り上げられていくものだと思うんです。

日本では、精神性を追求する機会があまりない

白取　僕はヨーロッパにも暮らしていましたけど、やっぱり日本人はぬるいんですよ。例えば、ベルリンなら、3人に1人は外国人なんですね。いつも異文化がすぐそこにある。こうなると、感覚が変わるんです。ガイジンだ、なんて誰も言わない。もともと混じり合っているんですから。

会話も、相手を傷つけるような会話はしないですね。言葉も使い方も慎重になる。違うことが当たり前になると、同じことに違和感を持つようになるんですよ。ずっと同じであることが、特殊だということに気づける。

キム　日本では、同じであること、まわりに合わせていくことで、ひとつの社会的な成功を手に入れることができた時代があったんだと思うんです。個が、ある程度、自分を犠牲にすることで、全体のパイが大きくなって、それが自分にも戻って来た。でも、もうそういう時代は終わったんですよね。ところが、今もそこから抜け出せない。

白取　**日本の成功というのは、せいぜいこの数十年の話**なんですね。なのに、こうすればうまくいく、なんて話が、いつまでも続くかのように語られたりする。錯覚ですよ。そもそも公式の成功法なんてものはない。それぞれの成功法はあると思いますよ。それぞれ個性はあるし、それぞれ生まれも能力も別ですから、それに合った成功法はある。

でも、誰にでも通じる成功法なんてものはない。あるとすれば、正直さとか、信頼とか、人としての極めてオーセンティックなものだと思う。（注：オーセンティック【authentic】［形動］１ 本物(ほんもの)であるさま。正統的であるさま。「―なバー」、２ ファッションで、着こなしなどが本格的なさま。「―なアイビースタイル」Etc.）

キム　ニーチェも言っていますよね。**確固たる人間の生き方の原則**というものがある。**成功や失敗を超えた、人間として生きるときに当たり前に大切なことがあるのだ、**と。ところが、それは実は実行するのが難しいことでもあるわけです。

例えば、大衆を信じない。大衆の中で埋もれることに対して、警戒をしなければいけない。自分の生きる意味は何なのか、自分にとっての真実は何なのか、常に自分で追求するような心を持たないと、流されてしまう。そうすると、自分の人生というものが、自分の人生ではなくなってしまう。自分だけの成功に出会えなくなってしまう。

白取　そういうことをちゃんと理解できるかどうか。こうすれば成功できる、こうすればうまくいく、というノウハウのようなものではなくて、もっと本質的なところから人生を考えることができるかどうか。

実際、一見ノウハウ的に見える本でも、本当にきちんとした経営者が書いた本は、最終的には、精神論に行きつくと思うんですよ。倫理が書かれることになるんです。それは、**ニーチェと共通している。それを読者がちゃんと理解できるかどうか、です。**

キム　精神論まで入っていった経験が、これまで自分には少ないのだ、という自覚は必要かもしれません。**日本では、精神性を追求するような機会が、そもそもあまりない。そこまで入らなくても、いろんなことが社会から準備されていたわけですから**。試験もあって、受験もあって、就活もあって。社会人になっても、この気分から抜け出せていないことに気づく必要はあるかもしれないですね。

白取　人生の取扱説明書みたいなものを手に入れて、日常の中で実践していけば、自分が徐々にステップを上がっているような気になるんでしょう。ただ、単純にマニュアル本を否定したいわけではないんです。逆に、逆境を経験したり、古典を深く読み込んだりして、ニーチェのレベルの精神性まで近づけたら、マニュアル本の重さにも気がつけるかもしれない。

本屋に行って本を眺めたとき、この本は自分のどこに位置づけられるかが冷静にわかって、それにマッチする本として、確信犯的にマニュアル本を手に入れることができるようになる。実際、そんなふうにしてマニュアル本を読んでいる人もいると思うんですよ。

苦難から逃げると、違う形でやってくる

キム『超訳　ニーチェの言葉Ⅱ』の中に、**苦難というのは、神様からの贈り物**だ、というニュアンスの表現がありました。これも、『媚びない人生』で伝えたかったメッセージなんです。苦難を悲しみとしてだけ捉えたり、苦悩の源泉として捉えるのではなく、この苦難には何かの意味があり、それを乗り越えることによって、今以上の強い自分というものを作ることができるという、自分の次なる成長の糧として受け取る。そうすると、その人の人生というのは、まったく違って見えてくると思っているんです。

白取　どんな仕事でも、何か問題なり、苦難なりが出てくるものですよね。それを超えて初めて仕事は完成するし、やり遂げることができる。苦難というのは、障害物競走の障害だと思えば、面白くなりますよね。原稿を書く場合だって、必ず問題が出てきますから。そうすると、「今回はこれが問題だ」と認識できる。逆に言えば、それを超えればできるんだ、とわかるわけですからね。

キム　苦難から逃げてはいけないですね。

白取　逃げるとまずいと僕は思いますね。逃げても、違う形で苦難や痛みはやってきますから。実はどうして『超訳　ニーチェの言葉』を書いたのかというと、苦難の中でニーチェを再発見したから。新しい意味で発見したからなんですよ。当時、僕は親の介護を8カ月やっていたんです。介護は本当に大変でした。体重は8キロ減りました。

朝から晩まで3食の食事を作るだけでも大変でした。でも、そんなものじゃない。廊下とかに、おしっこやウンチとかしょっちゅう垂れていくわけです。朝から晩まで、奴隷のような日々でした。もちろんヘルパーさんにも来ていただきましたが、ずっといてもらえるわけではない。朝晩1時間だけでも本当に 助かりましたが、それ以外は自分でやらなければいけない。

有料老人ホームは、順番待ちで入れてもらえなかったんです。待機している人が大勢いる。ようやく入れたのが、8カ月後なんです。この8カ月がしんどかった。その間の2カ月で、『超訳 ニーチェの言葉』を書いたんです。

最初の頃は、どうして自分がこんな目に、と思いました。軽い鬱にもなりました。胃をやられて入院もしました。ところが、途中から、きれいな青空が見えるような、まったく違う精神状態が訪れたんです。どんなことでも、やることが嫌でも何でもなくなった。そういう段階になると、物事の見方が変わるんです。

キム 僕は、いずれ死ぬんだ、その間の短い人生だ、と強く真剣に本当に捉えることができたとき、そういう瞬間が訪れる気がします。自分の身の回りに起きることに対する意味を、自分で見出せるようになる。それまでは、外から意味を見出そうとするんです。何も与えてもらえない、と。でも、それは自分で捉える能力がなかった、ということなんですよね。意味を見出せるようになると、自分の身の回りで起きることや出会うものが、すべて自分で解釈できるようになる。それを、次なるエネルギーに変えていくことができる。

風の向きがどうなのか、というよりは、それに合わせて帆を操ることができるようになる、とでも言えばいいでしょうか。そうすることによって、自分が進む道にうまく導かれていく。使命や権限は、自分の中にあるんだということに気づけるんだと思うんです。

苦しいかどうかを、判断基準の中核にするな

キム 僕は神様を信じているわけではありませんが、苦難にしても、逆境にしても、運命がそういうものを与えたときは、やっぱりその人がそれを克服できるキャパシティがあるということを、わかった上で与えていると思うんです。だから、苦難であればあるほど、厳しい逆境であればあるほど、克服したときの成長の度合いというのは大きい。**成長は苦難に比例**するんです。それ自体が、人生ではないか、とある意味で超然とするというか、**開き直ることが大事だ**と思っています。

これができたとき、人間は、自分がコントロールできない、不確実なものについて、何ら不安も持たないし、怯えたりもしなくなる。また、起きた後にも、成長の確信を得ることができると。

白取 それこそ、雑用が雑用ではなくなるんですよね。今までは、くだらない雑用だと思っていた、こまごましたことが、くだらないものではなくなる。くっきりとした形が見える。これは、苦難の経験でなくても、できるようです。例えば、瞑想を通じても同じ。禅僧の苦行も同じ。インドのヴェーダもそう。

僕の場合は、介護でそれが見えた。面白いところに行くんですよ。青い空が見えてくるというか、見てるものと自分が一体になる感じ。こんなこと、しゃべってるだけじゃわかんないと思うけど(笑)。苦難から逃げていると、これは味わえない。だから一度、真正面から本気で引き受けたほうがいいんです。

みんなが苦しいことを恐れていますね。だから、そこから逃れるための脅しが次々に登場することになる。美容、アンチエージング、保険、年金、投資…。みんなそうでしょう。「あなたはこんな不安から逃れたいでしょう。だからこうしなさい」という商品を売っている。恐怖や妄想を煽る商売がいっぱいある。そして、損をしたりする（笑）。

でも結局、苦しみから逃れることはできないんですよ。本当は、不安や苦しみとしっかり対峙したほうがいいんです。それをやらないと、煽られっぱなしでお金を取られ続けることになる。根本から、不安や苦しみと向き合わないと。

キム **精神性の高い人**は、苦難が訪れても、これは成長のチャンスだ、と思う。もっと境地の高い人になると、成長ができるなら、と苦難を自ら選択できる。一見すると、非合理、不合理に見えるものが、結果的には大きな成長をつかんでいる。そういうシーンは実は多々あるんですよね。苦難や逆境を乗り越えたときの成長イメージが明確に頭の中にあれば、挑戦することができる。いつ死ぬかわからないのに、険しい山を登る**冒険家の精神**は、そういうものではないかと思うんです。

白取 思えば**仕事を選ぶときには、いつもしんどいほうを選びますね。そのほうが、たぶん面白いと思うから。**

キム しんどいかどうか、が判断基準の中核ではなくなる、ということですよね。そうすることで、**本当に正しい選択ができるようになる。自分の志を貫ける**、ということですね。

（後編に続く）

吉田祐起のコメント：

何時も思うことは、本稿に「傍線」を勝手に引かせていただく厚かましさです。そのための「表示」は怠りません。時には「タイトル」さえ、勝手に入れさせていただきます。コラムにそれが無い時に限ってのことですが･･･。

本稿の密度の高さゆえに、下手なコメントは無用と心得ます。アンダーラインの個所がヨシダの共感した部分だと解釈してください。

なお、本文（3ページ）に出くわした「オーセンティック」という英語。お恥ずかしいながら、知りませんでした。勝手に青文字で注釈を入れました。ヨシダって、純真でしょう！学ぶことに年齢は問わず、です。傍らに居たアーネルに Do you know the word "Authentic"？ と、th サウンドで訊ねたら、「ファッションに関する形容詞？」と。当たり！でした。

それにしても、日本語化までしていない英語（？と思うのはヨシダだけ？）を使った本コラムに記者に恨みごと（？）ではありません。ベンキョウしました！

Back to 私が選んだインタネット情報＆吉田祐起のコメント」」（第1編：No.1～No.300）
Back to 私が選んだインタネット情報＆吉田祐起のコメント」」（第2編：No.300～）